

進路だより 第9号

令和3年2月26日

1年間お世話になりました。

今年度はいきなり新型コロナウイルスの影響で長期の休みから始まり第1回就業体験実習も中止と進路の面では先が見えにくく深い霧の中を歩き出したような状況でした。

そんな中就職が決まり始め、福祉サービス事業所の利用の見込みが見え始め、徐々に霧が晴れていったのは10月に入った頃でした。

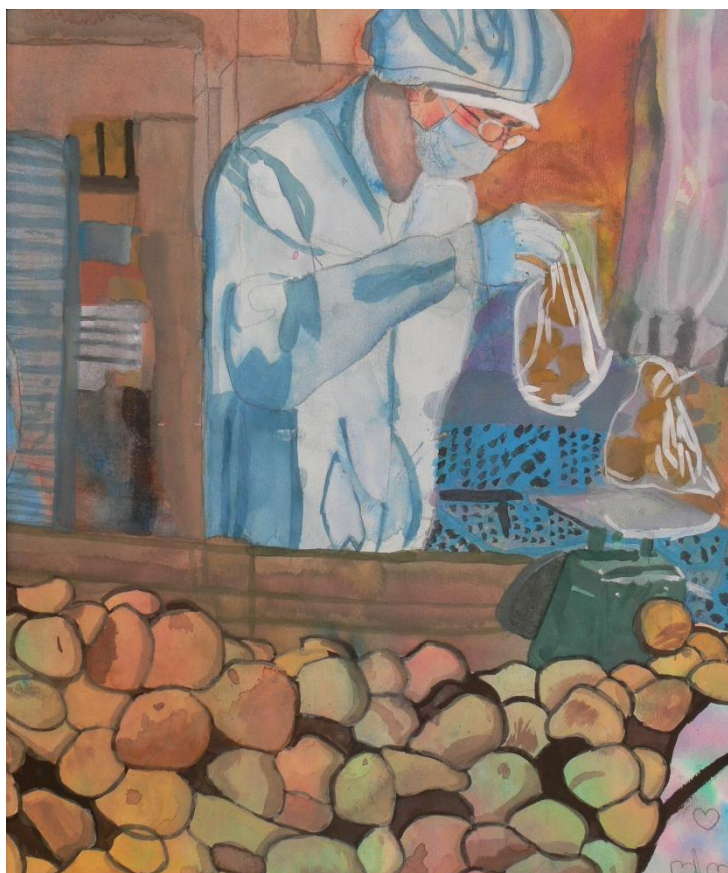
深い霧を晴らしたのは生徒の第2回就業体験実習でのがんばりでした。

また3年生数名は学校と家庭の進路に対する考えのずれが10月の3者面談で全員がほぼ一致したのもよかったことだと思います。その結果、3年生は10月の段階での進路希望と進路がほぼ一致させることができました。(具体的な進路先については「田園」をご覧ください。)

今年は幸いなことに進路面では新型コロナウイルス感染症の影響を極力回避できましたが、脅威はまだまだ続きそうです。リーマンショックの時は翌年、翌々年の方が雇用への悪影響が大きかったと言われています。

学校では生徒の就労先の開拓を進めてそのような状況に備えています。ただ一般就労も福祉就労も進路を決めるのは生徒のがんばりです。学校も保護者もしっかり支えていくことが大切です。新2年生、新3年生も学校、生徒、保護者間の相談を密にして進路については目標を1つにしていければと思います。

まだまだ続きそうなこの困難を乗り越えていきましょう。よろしくお願いします。



幸せな未来を作るのはこれから

新しい試みの一例を紹介します。他県では始まっていたことですが、卒業生のアーティストとしての活動が今年から本格化する動きが見られました。

本校の卒業生が多数お世話になっている福祉サービス事業所で希望者に対して週2回の創作活動がはじまりました。そこで作った作品を一般のギャラリーで展示しました。発表した作品の良さが多数の方に認められ新人アーティストとしての価格でずいぶん売れました。新人アーティストとして歩み出した方たちの何人かは前高特の卒業生です。

収入があったことももちろんうれしかったとは思いますが、自分の作品が価値を認められ売れるということは生活や創作活動の大きなモチベーションになっているかと思います。

彼らも最初からアーティストになろうとしていたわけではなく、新しい試みに対して積極的にチャレンジした結果です。

福祉関係ではこれからも様々新しい動きが予想されます。福祉サービス事業所のみならず一般就労した卒業生の余暇活動なども含めて多様な活動の広がりが期待できます。何か活動を紹介されたときに「自分でするから支援は必要ない」と消極的にならずにぜひいろいろとやってみてはどうでしょうか。様々なことを経験する中でこれだというものが見つかるかもしれません。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあってか正社員として就職する生徒はわずかに1名でした。ただ卒業生ががんばりを認められ正社員になったという声は少なからず寄せられています。がんばり次第で収入アップ、キャリアアップの期待もできるようになってきました。

正社員になって収入も増え結婚してがんばって子育てをしている等の話も聞こえてきます。

当然ですが、卒業直後の進路がゴールではありません。幸せな未来を作っていくのは卒業してからです。

ほんの一例を紹介しましたが、卒業生みなさんも卒業してから「よかったこと」「幸せを感じること」などぜひ教えてください。後輩に紹介していければと思います。

生徒作品ギャラリー （ホームページでは過去の号も含めてカラーでご覧いただけます）

